



# 近畿大学 サステナビリティ レポート 2023

# SDGs達成にむけた本学の取り組みについて

『持続可能な開発目標（SDGs：Sustainable Development Goals）』とは、国連により2001年に策定された『ミレニアム開発目標（MDGs：Millennium Development Goals）』の後継として、2015年の国連サミットで採択された「2030年までに持続可能でよりよい正解を目指す国際目標」です。貧困、教育、エネルギー、経済成長、気候変動など17分野のゴールと、169の具体的なターゲットで構成されているこの目標は、地球上の「誰一人取り残さない（Leave No One Behind）」ことを誓っています。既に周知のようにわが国でも産・官・学、あらゆる組織において、関連した様々な取り組みが行われており、2025年に開催される大阪・関西万博でもSDGs達成への貢献が目標の1つに掲げられています。



近畿大学 学長 細井美彦

現在、世界は、気候変動による異常気象や新型コロナウイルス感染症拡大、また各国におけるエネルギーや食糧の安定確保に関する不安など、多くの困難に向き合っています。人類がこの困難に打ち克ち、今後も存続し続けるためにも、私たちひとりひとりがSDGsの17のゴールを身近に感じ、自分なりに可能な取り組みを行うことが不可欠です。

近畿大学は、医学部を含む15学部49学科を擁する総合大学であり、養殖漁業、バイオコークス、環境・まちづくり、クリーンエネルギー、次世代農業など数多くの研究や社会貢献を行ってきました。また、国際社会に対応できるグローバル人材や、Society5.0の実現に向けた先端IT人材の育成も目指しております。

これより、さらなる次世代の教育・研究機関を目指す近畿大学は、学内外の組織、あるいは学生も含めた個人のSDGsの目標達成に関連する取り組みを積極的に支援することを宣言します。具体的には、学内におけるSDGsのシーズを整理し、ゴール達成に利する研究開発を支援し、これらから生まれる活動成果を社会に向けて積極的に発信・展開していく所存です。皆さまの温かいご理解とご支援お願い申し上げます。

## 世界初！培養肉に用いる細胞を効率的に増やす食品添加物を発見 低コストで環境負荷が少ない培養肉の生産技術確立に期待

近畿大学大学院農学研究科と徳島大学の共同研究グループは、培養肉の原料となる筋芽細胞を低濃度血清培地でも効率的に増殖させる食品添加物MβCDを発見しました。MβCDは筋芽細胞の分化を抑制し増殖を維持することで、動物種を問わず有効であることを確認。無血清・低コストでの筋芽細胞培養技術確立に貢献し、将来の安全で環境負荷の少ない培養肉生産への応用が期待されます。



## 近畿大学×神戸大学SDGsフォーラム 「食の循環」 ～大阪湾を囲んだ二つの大学、初のアクション～

近畿大学と神戸大学は、SDGsの普及と展開を目指し『近畿大学×神戸大学

SDGsフォーラム』を開催しました。食をテーマに「食の循環」を考え、生産から再生産までの過程を取り上げました。イベントは、2023年7月14日に近畿大学東大阪キャンパスで対面・オンラインのハイブリッド形式で行われ、

講演者には両大学の教員が登壇しました。



## 産学連携で地球環境に配慮したメニューを！ 第21回日本小児 栄養研究会の昼食に「KINDAI Ethical Bento」を提供

奈良キャンパスで開催された第21回日本小児栄養研究会では、「KINDAI Ethical Bento」というSDGsに配慮したお弁当を提供しました。このお弁当は、農学部の農産物や開発商品、未利用食材を有効活用し、食品ロスを軽減する取り組みで、学生がデザインしたお弁当の帯には、人・地球環境・社会に配慮した食材利用の取り組みが表現されました。会場では、近大みかんの果実部を利用したみかんゼリーや、在庫過多のケーキも提供されました。



## 近畿大学・京都府立桂高校・小川珈琲によるプロジェクト コーヒー抽出残渣を用いた循環型農業の確立に向け 共同研究を実施



農学部と京都府立桂高等学校農業科は、コーヒー抽出残渣を利用した循環型農業の研究を行っています。近畿大学の実験圃場で、小川珈琲から提供されたコーヒー抽出残渣を使ってきのこを栽培し、その廃菌床をトウモロコシ栽培の肥料に利用し生育調査を実施しました。このプロジェクトは、大学生と高校生の共同研究であり、高校生たちのキャリア教育にも貢献しています。



## 「食べて学ぶ 食べて支える 難民支援プロジェクト」を実施 学生食堂で難民申請者のための寄付金付きカレーを提供



国際学部の桑名ゼミは、学生食堂で日本にいる難民申請者のための寄付金付きメニューを提供する「食べて学ぶ 食べて支える 難民支援プロジェクト」を立ち上げました。学生食堂で提供される「たっぷりチーズカレー」の売り上げから集まった寄付金は、認定NPO法人難民支援協会に寄付されました。学生は食事を通じて難民問題について学び、関心を高める機会としました。



## 和歌山県産農産物の未利用資源を利活用した共同研究の成果 「和歌山フルーツコーラ」を2月1日（木）から販売開始



近畿大学附属湯浅農場の伊藤仁久准教授らは、和歌山県産果実の未利用資源を活用してクラフトコーラ「和歌山フルーツコーラ」を開発しました。これは桃や近大みかんの果皮を使用したサステナブルな商品で、クラウドファンディングの返礼品として取り扱われていました。今後は、道の駅 海南サクアスなどで一般販売され、SDGsに貢献する商品として地域産業の活性化に寄与することが期待されています。



## 近畿大学の学生がデザインしたフードロス削減BOX「fuubo」を大阪で初めての設置



近畿大学は、東京のZERO社が運営するフードロス削減BOX「fuubo」をキャンパスに設置し、食品のフードロスを削減しました。またMOTTAINAI COCOLOFARM社と共同で、規格外の伊予柑を使った学生考案のチョコレート菓子「チョコっと伊予柑」を販売しました。これらの取り組みは、SDGsへの貢献や環境意識の啓発を目指しています。

正面イメージ



左側面イメージ



右側面イメージ



## 世界初！切除不能な中期肝がんに対する新たな治療法を開発 先行した免疫療法と根治治療で中期肝がん患者の35%を治癒



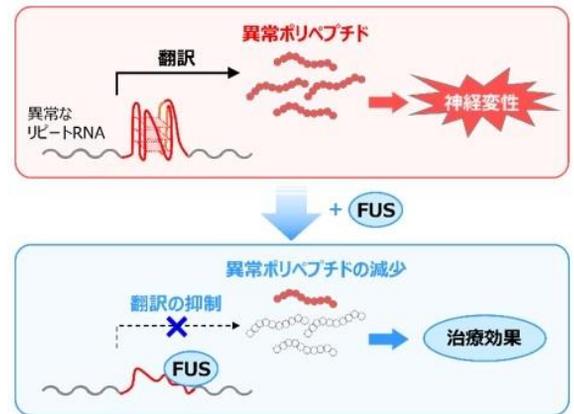
近畿大学医学部の工藤正俊教授らは、国内6施設と香港1施設との共同研究で、切除不能な中期進行肝がん患者向けの新規治療法「ABCコンバージョン治療」を世界で初めて開発しました。アテゾリズマブとベバシズマブ併用療法で腫瘍を縮小後に切除やラジオ波治療を行い、縮小しない場合はTACEを併用して免疫作用を活性化。110例中38例が根治し、将来的に標準治療となる可能性が期待されます。



## 筋萎縮性側索硬化症と前頭側頭型認知症の新たな治療戦略への期待 異常なポリペプチドの合成を制御するメカニズムを発見



近畿大学医学部らの研究グループは、大阪大学・京都府立医科大学・東京工業大学などと共同で、ALSやFTDの原因となる異常ポリペプチド合成をFUSタンパク質が制御することを発見しました。さらにFUSを含む一群のタンパク質が疾患モデルショウジョウバエで神経変性を抑制し、治療効果を示すことを確認。本成果は国際誌『eLife』に掲載され、ALSやFTDなど神経難病に対する新たな治療法開発への可能性が期待されます。

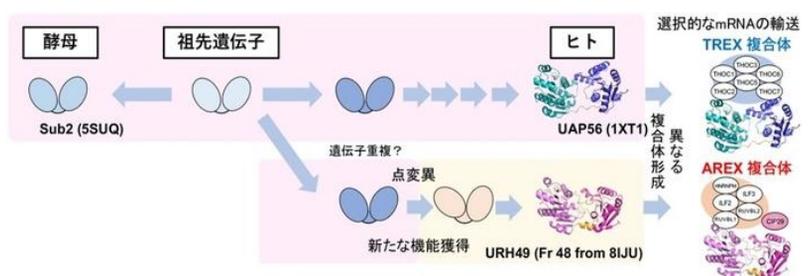


## mRNAを核から細胞質へ輸送するバルクmRNA輸送体の構成因子を解明 がんの早期発見や予後の予測に役立つ可能性のある研究成果



近畿大学の増田誠司教授らの研究グループは、mRNAを核から細胞質へ輸送するバルクmRNA輸送体の一種「AREX複合体」の構成因子を新たに5種類同定し、TREX複合体との構造・機能の違いを解明しました。

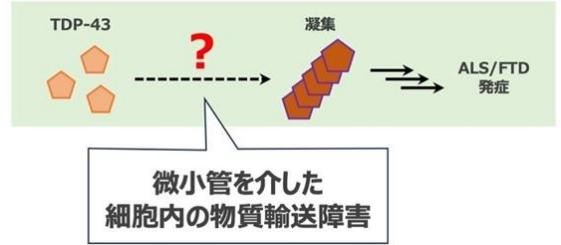
中心構成因子の1アミノ酸変異が構造差を生み、特異的なmRNA輸送に関与することを発見。これら因子はがん細胞で高発現しており、がんの早期発見や予後予測への応用が期待されます。成果は『Nature Communications』に掲載されました。



## 筋萎縮性側索硬化症と前頭側頭型認知症の新たな治療標的の提案へ タンパク質が異常に凝集するメカニズムを解明



近畿大学と京都府立医科大学の共同研究グループは、神経難病の筋萎縮性側索硬化症（ALS）と前頭側頭型認知症（FTD）の原因であるTDP-43タンパク質の異常凝集が、細胞内の物質輸送障害によって生じることを発見しました。さらに疾患モデル動物で輸送障害が病状を悪化させることを証明。本成果は新たな治療法開発につながる可能性を示し、国際誌『Acta Neuropathologica Communications』にオンラインに掲載されました。



## 臨床とがん細胞株データベースでは、薬剤感受性の解析結果に差異が データベースを用いた薬剤開発の限界を示唆する研究成果



近畿大学と京都大学の研究グループは、約1,000種類のがん細胞株データを解析し、卵巣がんや乳がんが薬剤感受性と関連する「相同組換え修復欠損（HRD）」が、細胞株データベースでは逆に薬剤抵抗性と相関することを発見しました。臨床結果との乖離が明らかになり、がん細胞株データベースを用いた薬剤開発には限界があることが示唆されました。本成果は国際誌『Scientific Data』にオンライン掲載されました。



## ステージ4肺がんの症例データから予後を予測するAIモデルを構築 患者の医療・ケアの方針を決定する際の重要な指標に

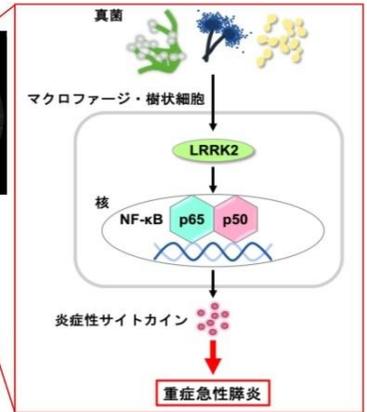
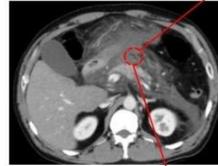


近畿大学医学部の林秀敏教授と和歌山県立医科大学の藤本大智講師らは、全国16医療機関で収集した6,751例のステージ4肺がん患者データを基に、日本人の予後を高精度で予測するAIモデルを構築しました。電子カルテ連携システム「Cyber Oncology®」を用いて高品質な情報を収集し、AIに学習させた結果、生存期間の予測精度は各期間で約80%に達しました。予後群もAIにより明確に分類され、今後の治療方針決定の有用性が示されました。



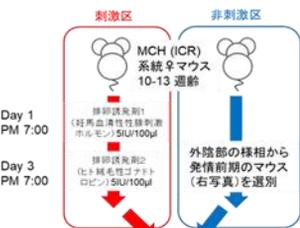
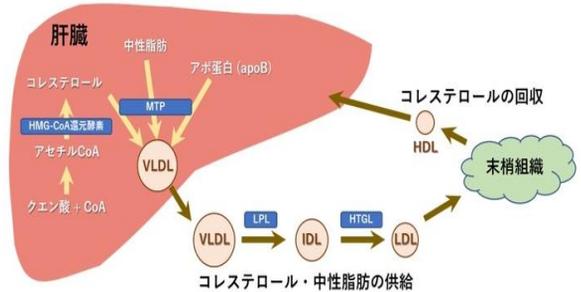
## 真菌感染が誘導する急性膵炎の重症化メカニズムを解明 死亡率約20%の重症急性膵炎の新たな治療標的が明らかに

近畿大学医学部の研究グループは、真菌感染が急性膵炎を重症化させる仕組みを解明しました。膵臓に侵入した真菌が免疫細胞内の分子LRRK2を活性化し炎症を悪化させることを確認。逆にLRRK2を抑制すると症状が軽減しました。本成果は新たな治療標的の可能性を示し、英国学術誌『Clinical and Experimental Immunology』にオンライン掲載されました。



## ローズヒップ由来ティリロサイドによる脂質異常症予防作用の可能性が明らかに 「日本生薬学会 第69回年会」において発表

森下仁丹は近畿大学薬学総合研究所・アンチエイジングセンターと共同で、ローズヒップ由来ポリフェノール「ティリロサイド」が脂質異常症を予防する作用を解明しました。細胞実験では、ティリロサイド添加により肝細胞からのコレステロールおよびVLDL分泌を抑制。マウス実験でも血中中性脂肪の上昇が抑えられ、肝臓からのVLDL分泌抑制が確認されました。この成果は日本生薬学会で発表予定で、健康維持に役立つ商品開発への応用が期待されました。



## 不妊治療時の排卵誘発剤投与が受精卵に悪影響を与えないことを確認 長年議論されてきた排卵誘発剤投与の可否に一石を投じる研究成果

近畿大学生物理工学部の山縣一夫教授らは、マウスを用いた実験で、排卵誘発剤の投与が受精卵の染色体分配や発生速度に影響を与えないことを確認しました。誘発剤を使うと得られる受精卵は約1.4倍に増加し、質も変わりませんでした。この結果、より多くの良質な卵子を得る手段として、排卵誘発剤を用いた刺激周期法が有効である可能性が示されました。本成果は2024年3月に国際誌『Journal of Reproduction and Development』に掲載されました。



## 「HMスキンマーカー」を11月23日から医療機関に販売開始 手術等で使用する、消えづらく発がん性物質を含まない皮膚マーカー

近畿大学医学部と早川ゴムが共同で、放射線治療や手術時に使用する発がん性物質を含まない「HMスキンマーカー」を開発しました。従来の皮膚マーカーは発がん性の懸念や耐久性不足が課題でしたが、新製品は化粧品原料を用い安全性が高く、油性マジックの約2倍の耐久性を実現。子どもの皮膚への影響も少なく安心して使用できます。2023年11月23日より東洋メディックを通じて医療機関向けに販売開始され、幅広い活用が期待されています。



## 近畿大学×吉本興業株式会社「笑い」の効果を医学的に検証 がん経験者の生活の質向上等に「笑い」が効果的である可能性



近畿大学医学部と吉本興業の共同研究により、がん経験者50人を対象に自宅で毎日15分以上お笑いDVDを4週間鑑賞させる実験を実施しました。採血や心理アンケートの解析から、生活の質（QOL）、抗酸化力、不安、うつが改善が示唆されました。特にFACT-GやEQ-VAS、HADS、BAP/OSI指標で有意な変化が確認され、笑いが低コストかつ安全にがん経験者の健康や精神状態に好影響を与える可能性が示されました。この成果は国際的な医学雑誌『Cureus』にオンライン掲載され、笑いを活用した生活支援法の確立につながることを期待されています。



## 注射（穿刺）トレーニング用パッド「レベラップ」を産学連携で開発 新素材と耐久性で医療技術者の穿刺技術の向上に貢献

近畿大学生物理工学部はタナック、朝日ラバーと共同で注射トレーニング用パッド「レベラップ」を開発しました。新素材により耐久性とリアル感を向上させ、従来の約3倍の穿刺練習が可能となりコスト削減も実現しました。模擬皮膚や血管を再現し、逆血確認や輸液接続など一連の手技を学べます。コンパクト設計で病院や消防署での透析トレーニングにも対応し、初心者から上級者まで使用可能。学生や医療従事者の技術向上に寄与します。



## 東大阪キャンパスのトイレで生理用ナプキンの無償提供を開始 「生理の貧困」対策や女性のQOL（クオリティオブライフ） 向上の取り組み



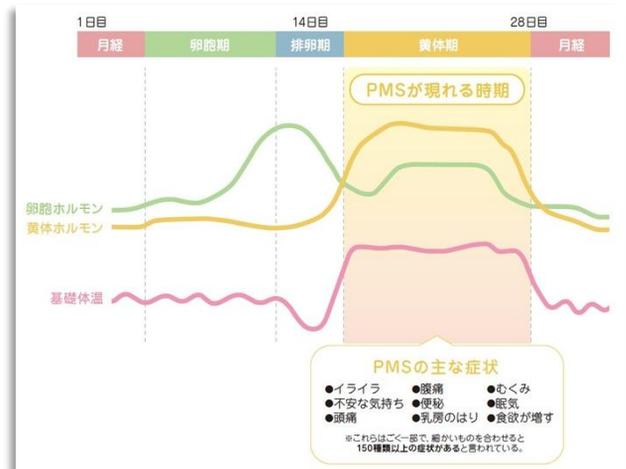
近畿大学は、東大阪キャンパスのトイレで生理用ナプキンの無償提供を2023年4月1日から始めました。これにより、「生理の貧困」対策や女性のQOL向上に貢献し、使用期限が近づいた防災備蓄品を利用することで廃棄物の削減も目指しています。学内の計61個室の女子トイレに設置されました。



## エステー株式会社×近畿大学東洋医学研究所 月経前の不調への香りによる緩和効果を確認



エステー株式会社と近畿大学東洋医学研究所の共同研究で、スティック型練香水による月経前症候群（PMS）の緩和効果が科学的に確認されました。20～39歳の女性140人を対象にバーベナ、ミント、ラベンダー調の香りを1日4回使用してもらい、世界標準の評価ツールDRSPで分析した結果、精神症状だけでなく腹痛や体の不快感など身体症状も有意に軽減されました。今後はより効果的な香りの探索やウェルネス商品開発に活用されます。



## 「SDGs WEEK in KINDAI 2023 ～SDGsと一緒に未来を旅する～」 元プロ野球選手・鳥谷敬氏の講演や古着ファッションショーを開催



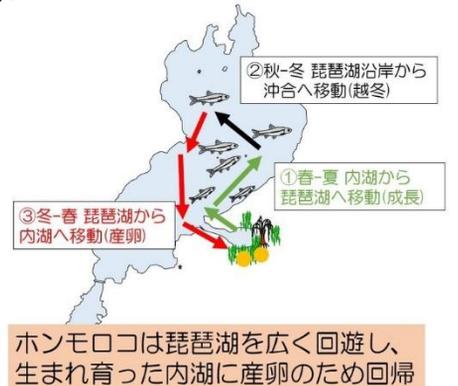
近畿大学社会連携推進センターは「SDGs WEEK in KINDAI 2023」を開催しました。学生や教職員が講演会、ワークショップ、古着ファッションショー、映画上映などを通じSDGs達成や環境問題、平和への意識向上を図りました。元プロ野球選手・鳥谷敬氏によるエネルギー問題の講演や、故・中村哲医師のアフガニスタンでの灌漑事業などの軌跡をとらえたドキュメンタリー映画の上映などもありました。廃材再利用や食品ロスクイズなど多彩な企画で持続可能な社会づくりを考える機会となりました。



## 琵琶湖固有の魚「ホンモロコ」が産卵回帰することを発見 ホンモロコの生態解明と資源回復に繋がる世界初の研究成果



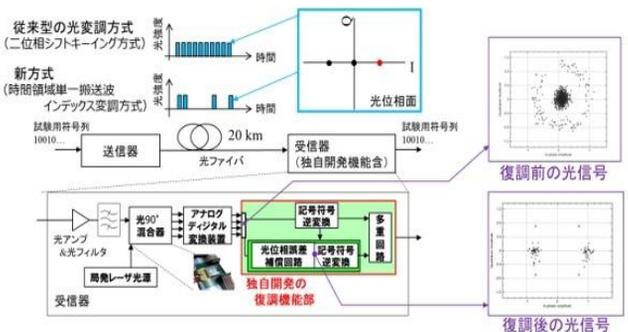
近畿大学・京都大学らの研究グループは、琵琶湖固有のコイ科魚類ホンモロコが、生まれた内湖から琵琶湖を広く回遊し、翌年には高確率で元の産卵場所に回帰することを世界で初めて確認しました。稚魚の標識放流と漁獲解析により、沿岸から沖合を経て内湖に戻る生態が解明されました。本成果はホンモロコ資源の回復や産卵場保護の重要性を示すもので、国際誌『Canadian Journal of Fisheries and Aquatic Sciences』にオンライン掲載されました。



## 世界初！独自技術でエネルギー効率の高い光情報伝送方式を実証 消費電力削減や地域の情報格差解消に繋がる研究成果



近畿大学産業理工学部はBeyond 5G/6G時代に向け、エネルギー効率の高い光ファイバアクセス技術を研究。独自開発の復調回路により、世界で初めて時間領域単一搬送波インデックス変調信号の復調に成功しました。これにより条件次第で従来の2倍の効率を実現し、消費電力削減や伝送距離延長による地域の情報格差解消に寄与する可能性が示されました。成果は国際学術誌『Journal of Lightwave Technology』に掲載されています。



## 産業理工学部「ソーシャルグッド研究会」による『フェアトレードは甘くない』出版記念トークライブ開催

産業理工学部の教員3人が「ソーシャルグッド研究会」を立ち上げ、社会的課題の解決に取り組むNGO・NPO等の活動内容を広く周知するため、『フェアトレードは甘くない』という共著書を出版し、出版記念トークライブを開催しました。この本の売上はすべて、環境や貧困などのテーマに取り組む団体に寄付され、その成果は「ソーシャルグッド研究会」のウェブサイトで報告されました。トークライブでは、著者たちがフェアトレードに関する研究成果や今後の展望について話し合い、参加者との質疑応答も行われました。



## 近大ICTメロンを使用したドライメロンを期間・数量限定で販売 SDGsに配慮して、メロンの果皮部分も食べられるように加工

農学部と株式会社Delicious Revolutionは、近大ICTメロンを使用したオリジナルのドライメロンを共同開発しました。このドライメロンは、SDGsの観点からメロンの果皮部分を含めた素材を加工して、奈良きたまちで行われる「きたまちといろ・といろ市」で販売されました。このプロジェクトを通し農学部学生は、商品開発だけでなく販売も自ら行い、直接消費者と関わりを持つことで、農業の6次産業化を「実学」で学びました。



## 産学官連携、コロナ後の観光市場活性化を目的として奈良の特産品の柿や日本酒を配合したご当地コスメの新商品を共同開発

近畿大学と化粧品メーカーの株式会社マックスは、奈良の観光市場の活性化を目指し、産学官連携で開発した「やまとcosmetic柿の葉配合ハンドジェルクリーム」を奈良市内の店舗やインターネットで販売しました。経営学部の金ゼミは（公財）奈良県地域産業振興センターの支援を受け、地域の特産品を活用したコスメの開発をマックスと共同で行っています。この取り組みは、社会課題の解決に貢献する化粧品の開発を目指し、奈良の観光産業の活性化と地域資源の活用を両立させるために行われました。



### やまとcosmetic 柿の葉配合ハンドジェルクリーム



内容量：20g

#### ◇ハンドジェルクリームの特徴



- 潤いを与えるエイジングケア。
- 乾燥したお肌につっぱり水分補給
- しっとりして、でもべたつかない使用感
- ポーチに入るコンパクトサイズ
- 自然由来の美容成分でやさしく保湿
- 心もお肌もリラックスするシトラスの香り

### 奈良の特産品である柿や米発酵液(日本酒)を配合



## 2023年度 第1回生物理工学部公開講座を開催

「植物油でアンチエイジング!?：植物や藻のもつ脂質の活用を目指して」  
「自宅でできる血液透析：心豊かに生きる時代がやってきた！」



近畿大学生物理工学部は、4年ぶりに公開講座「BOST Science Café」を開催しました。講座は2部構成で、①植物や藻が作る必須脂肪酸を魚油の代替として利用する研究について解説、魚油特有の臭いや汚染物質の課題を克服する新たな可能性を紹介。②自宅で家族が介助者となり行う在宅血液透析の仕組みや利点を説明し、週3回の通院透析に比べ生活の質を向上させる方法をわかりやすく伝える内容となっています。

## 市民参加のメタバース・esports体感イベントを実施 東広島市生涯学習フェスティバルでプロ選手のプレイを観戦



近畿大学と東広島市は、「Town & Gown Office」で取り組むプロジェクトの一環として、メタバースとesports分野の体感イベントを開催しました。このイベントでは、小学生や一般の市民が参加し、esportsを観戦したりプレイしたり等の機会が提供されました。学生たちはイベントの運営に携わることにより、地域活性化および地域住民との交流の促進に貢献しました。



## "オール近大"川俣町発・復興人材育成プロジェクト 「かわまたジェラート 純米大吟醸スパークリング香泡天田の酒粕」を発売



「大学等の「復興知」を活用した人材育成基盤構築事業（事業名："オール近大"川俣町発・復興人材育成プロジェクト）」を活用し、農学部が中心となり、川俣町関係者と共同で福島県川俣町の地域資源を生かした商品開発等を行っています。

今回は、川俣町との連携で、東日本大震災の復興支援として「かわまたジェラート 純米大吟醸スパークリング香泡天田の酒粕」を企画・開発し、道の駅かわまたで販売を開始。農学部の学生が商品の企画やレシピを考案し、文芸学部の学生がパッケージをデザインしました。



## 廃棄米やニンジンの皮などを原料とした「さすてな紙袋」を発売 文芸学部生が商品のロゴマークをデザイン



文芸学部の安ゼミはマツシロ株式会社と連携し、「さすてな紙袋」のロゴマークをデザインしました。これは廃棄米やニンジンの皮などをリサイクルして作られたSDGsに貢献する商品で、学生が実践的なデザイン力を身につける産学連携の一環です。商品は2024年2月1日からマツシロ株式会社のウェブサイトとAmazonで販売されました。



## グローブの制作過程で出る廃棄レザーをコースターとして再利用 近畿大学生発のレザーブランド「Pothos.」が地元企業と連携



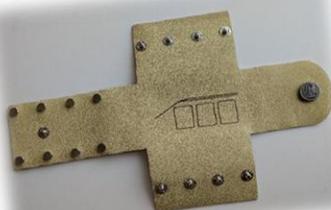
経営学部の古殿ゼミは、野球グローブの制作過程で出る廃棄レザーを再利用してサステナブルな商品を作り出す学生発のレザーブランド「Pothos.」を立ち上げました。試作品としてコースターを製作し、近畿大学生へのプレゼントイベントを通じて商品開発に役立てます。この取り組みは、近畿大学と地元企業の協力によるSDGsへの貢献を目指した産学連携の一環となります。



## 経営学部生が「きんてつ鉄道まつり2024 in 塩浜・白塚」に参加 近鉄特急「しまかぜ」のシートを活用したワークショップを開催



経営学部の文能ゼミは、近鉄やカネエム工業、サンワードの協力のもと、近鉄特急「しまかぜ」の座席シートを再利用したワークショップ・キットを製作しました。これを用いたワークショップ「『しまかぜ』シートで作ってみよう!!」を「きんてつ鉄道まつり2024 in 塩浜・白塚」で開催しました。学生たちはアップサイクルの重要性と可能性を学び、実際の商品開発の難しさや達成感を体験しました。



▲キットを使って制作したカードケース



## 残布や古着などからバイオリサイクル燃料「エシカルザンプ®」を製造 新たな服のサイクルを生み出す実験場「KISARAZU CONCEPT STORE」に 体験・展示ブースを開設



文化学園大学と近畿大学は、繊維・ファッション業界の課題を解決するため、廃棄される古着や残布を再利用しバイオリサイクル燃料「バイオコクス」を製造する共同研究を行っています。繊維・ファッション業界の持続可能性と地域社会の活性化に貢献する取り組みの一環として、三井不動産が開設する「KISARAZU CONCEPT STORE」には、来場者が残布や古着からバイオコクス（「エシカルザンプ®」）を製造する体験・展示ブースが設置されました。



## 総合社会学部生が総合地球環境学研究所主催イベントに協力 アートとサイエンスを融合した展示から、地球環境について考える



総合社会学部の村松ゼミは、大学共同利用機関法人人間文化研究機構総合地球環境学研究所の主催する「地球研ミュージアゴラ『地球がささやく 地球にささやく』」イベントに協力し、企画・制作を担当しました。このイベントは、伝統的な町家空間でアートとサイエンスを融合させ、参加者が地球環境について対話する場を提供しました。展示では、写真や映像、音を使用し、地球研の研究活動を紹介し、来場者が地球の未来について語り合う機会を提供しました。

## 「バイオコクス」を活用したキャンプ体験イベントを開催 SDGsなバイオマス固形燃料の魅力が学生が体感



近畿大学は、「Biocoque de Camp」というプロジェクトの一環として、バイオマス固形燃料「バイオコクス」を使ったキャンプ体験イベントを開催しました。このイベントでは、学生がバイオコクスを活用したキャンプの魅力を経験し、バイオコクスの利用法を学びました。初心者向けのテント設営やテントサウナ体験、試食などが用意され、エシカルなキャンプの普及とバイオコクスの認知度向上が図られました。



## 近大ICTメロンの摘果を動物の食事として提供！農学部生が動物へ摘果メロンを与え、農業副産物の活用についての学び



アドベンチャーワールドは、近畿大学農学部から提供された最新のICT農法で育てられた摘果メロンを、動物たちの食事として活用しています。摘果メロンとは、糖度の高いメロンをつくるために間引かれるものです。学生は「なら近大農法」と呼ばれるICT農法によって育てられた摘果メロンが動物の飼料として使われる様子を見学し、農業副産物の有効活用方法を学びました。昨年実施した際には、アジアゾウが摘果メロンを食べたあと、その糞からメロンの芽が発芽し、結実するなど自然界の循環が観察できました。



## 八尾市の廃校を活用した施設でアップサイクルイベントを開催 学生企画による「学ぼう！作ろう！ランドセルリメイク」



経営学部の松本ゼミと皮革製品メーカーの株式会社Askalカバン工房が共同で、イベント「学ぼう！作ろう！ランドセルリメイク」を開催しました。このイベントでは、八尾廃校 SATODUKURI BASE でランドセルリメイクの展示会とワークショップが行われ、使い終わったランドセルを再利用する取り組みを広めました。学生らは廃校活用とランドセルリメイクを掛け合わせたプロモーション方法を提案し、アップサイクルやSDGsの魅力を伝えました。

## 第9回JICA野球振興支援ボランティア派遣 産業理工学部 硬式野球部員らを4年ぶりにペルーへ派遣



近畿大学産業理工学部の硬式・準硬式野球部員10名が、2024年2月7日～3月7日の1か月間、JICAとの連携でペルー・リマ市へ派遣され、現地の少年たちへ野球指導を行いました。コロナ禍で中断していたペルー派遣を4年ぶりに再開。練習や交流試合、施設見学、環境教育活動など多彩なプログラムを通じてスポーツ振興と異文化交流を図りました。



## 魚食普及イベント「ハタハタ旗プロジェクト」および 未利用魚を活用した商品開発・販路拡大の取組み実施について



兵庫県香美町と但馬漁協らは地域活性化へ包括連携協定を結び、2023年11月23日の「エキスポ文化祭2023」で魚食普及と未利用魚活用を実施しました。近畿大学生考案キャラ「はたがみさま」を使ったワークショップでハタハタの認知度向上を図るほか、未利用魚ヤマガレイを用いた新商品を販売し、漁業者支援や資源の有効活用を推進。大阪・関西万博の共創チャレンジ登録事業として、水産業の持続可能性向上にも寄与します。

近畿大学 × 香美町



## 文部科学省研究拠点形成費等補助金 がんプロフェッショナル養成 第4期「阪神5大学サステナブルがん人材養成プラン」が始動

近畿大学は、他4大学とともに「阪神5大学サステナブルがん人材養成プラン」を開始しました。第4期がんプロフェッショナル養成事業として、医療現場・予防医療・研究開発の3領域で連携し、がん専門医療人材を育成。新たにバイオインフォマティクス養成課程も開設し、予防医療や高度がん医療の推進に貢献することを目指します。



阪神5大学サステナブルがん人材養成プラン

文部科学省採択事業  
次世代のがん  
プロフェッショナル養成プラン

## 柿タンニンによる悪玉コレステロール値低減作用を臨床試験で実証 「和歌山のたねなし柿」機能性表示食品として消費者庁に届出完了

近畿大学は、和歌山県農業協同組合連合会と大阪公立大学とともに、和歌山産たねなし柿に含まれる「柿タンニン」に悪玉コレステロール低減効果があることを臨床試験で実証しました。1日1個の摂取で効果が期待でき、2023年8月に機能性表示食品として消費者庁に届出ました。柿特有成分による初の機能性表示食品となり、和歌山の柿生産振興とSDGs推進につながる取り組みとなります。

